

件 名	堺高校のあり方について														
担 当	学校教育部 教育課程課														
概 要	<p>○趣旨 堺高校のあり方について、基本的な方向性を示した「堺高校のあり方について【学校改革の方向性】（案）」を整理しましたので、その内容を報告します。</p> <p>○概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ページ</th><th>項目・内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P1</td><td>1. はじめに</td></tr> <tr> <td>P2～P17</td><td> 2. 社会の動向等 • 志願者数等生徒の状況 • 将来にわたり必要とされる能力 • 生徒像の変化 </td></tr> <tr> <td>P18～P21</td><td> 3. 課題整理等 • 堀高校のあり方検討にあたって（取組経過等） • 堀高校のあり方検討にあたって（意義） </td></tr> <tr> <td>P22</td><td> 4. 高校改革の方向性 • めざす高校 • 改革コンセプト </td></tr> <tr> <td>P23</td><td>5. 今後の予定（案）</td></tr> <tr> <td>P24</td><td> 6. 参考 • 国における議論 </td></tr> </tbody> </table> <p>○今後の予定 令和7年3月 高校改革の基本的な方向性決定 「堺高校のあり方について【学校改革の方向性】」策定</p>	ページ	項目・内容	P1	1. はじめに	P2～P17	2. 社会の動向等 • 志願者数等生徒の状況 • 将来にわたり必要とされる能力 • 生徒像の変化	P18～P21	3. 課題整理等 • 堀高校のあり方検討にあたって（取組経過等） • 堀高校のあり方検討にあたって（意義）	P22	4. 高校改革の方向性 • めざす高校 • 改革コンセプト	P23	5. 今後の予定（案）	P24	6. 参考 • 国における議論
ページ	項目・内容														
P1	1. はじめに														
P2～P17	2. 社会の動向等 • 志願者数等生徒の状況 • 将来にわたり必要とされる能力 • 生徒像の変化														
P18～P21	3. 課題整理等 • 堀高校のあり方検討にあたって（取組経過等） • 堀高校のあり方検討にあたって（意義）														
P22	4. 高校改革の方向性 • めざす高校 • 改革コンセプト														
P23	5. 今後の予定（案）														
P24	6. 参考 • 国における議論														

堺高校のあり方について

【学校改革の方向性】（案）

目 次

1. はじめに	1
2. 社会の動向等	2
3. 課題整理等	18
4. 高校改革の方向性	22
5. 今後の予定	23
6. 参考	24

1. はじめに

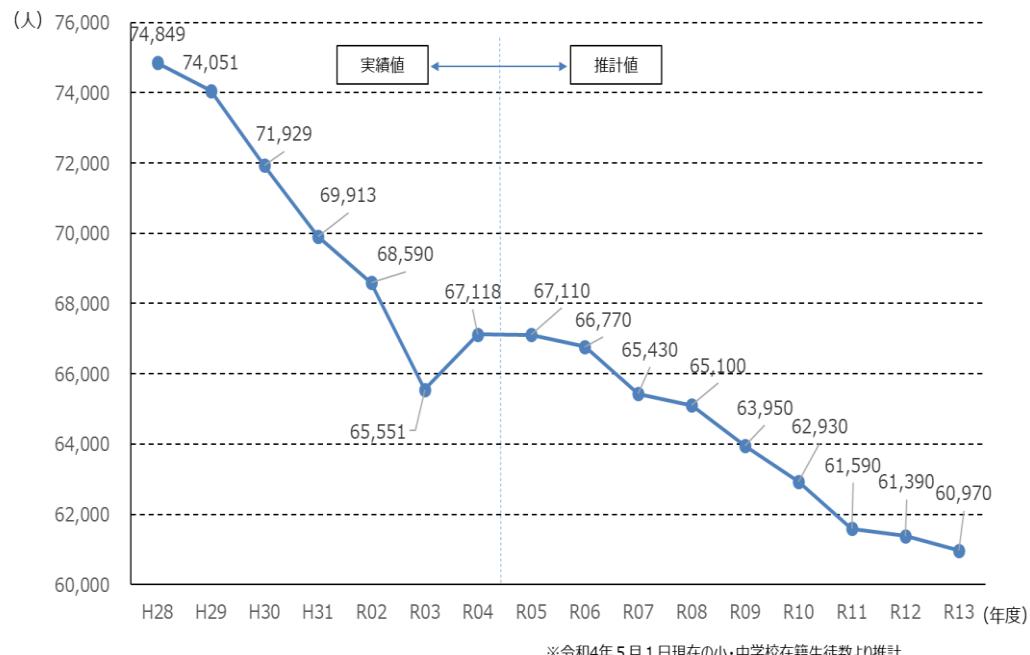
- 現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字をとつて「VUCA」の時代と言われている。そのような中では、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて持続可能な社会を維持・発展させることが求められる。また、コミュニティ存続が現実問題となる中、地域におけるヒト・モノ・カネの循環や幸福・福祉（Well-being）の向上も重要。
- 社会の価値観やあり方が大きな変革期を迎える一方、技術革新が急激に進み、国をはじめとした多様な主体がSociety5.0の実現に取り組む中、国際競争力の強化に向けて各産業界におけるDXの推進などが社会的な課題とされている。
- 令和3年1月公表の中央教育審議会答申「『令和の日本型教育』の構築をめざして～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」において、「職業教育を主とする学科を置く高等学校においては、技術革新・産業構造の変化、グローバル化等、社会の急激な変化に伴い、修得が期待される資質・能力も変わってきており、今後とも大きく変わることが考えられる中、地域の持続的な成長を支える最先端の職業人育成を担っていくには、加速度的な変化の最前線にある地域の産業界で直接的に学ぶことができるよう、産業界と高等学校と一体となつた、社会に開かれた教育課程の推進が重要である。」と示された。
- 高等学校への進学率が約99%に達し、多様な入学動機や進路希望、学習経験など様々な背景を持つ生徒が在籍し、高等学校の実態も多様化している。また、高等学校教育を取り巻く状況を見ると、産業構造や社会システムの「非連続」とも言えるほどの急激な変化や選挙権・成年年齢の18歳への引下げ、義務教育段階で不登校経験を有する生徒の増大などの変化に加え、更なる少子化の進行により中学校卒業者数が減少する中、志願者数の大幅な増加は見込みづらく、学校の小規模化の進行が懸念される。これまで高度で実践的な技能・技術の習得を通じて社会の様々な分野で活躍する人材を育成・輩出してきた堺市立堺高等学校（以下、「堺高校」という。）においても同様の課題に直面している。
- 「堺高校のあり方」では、堺高校が直面する課題に対峙し、新しい価値の創出や課題解決に貢献できる人材の育成に向け、全日制、定時制を含めて総合的に整理し、社会からの期待に応え生徒から選ばれる魅力的な学校を実現するため、めざすべき将来像やその実現に向け取り組む道筋を示す。

2. 社会の動向等

～志願者数等生徒の状況～

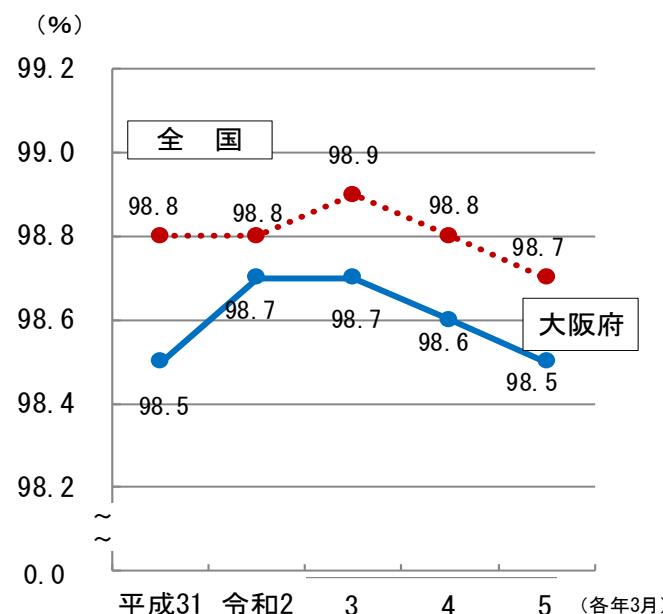
■ 大阪府内中学校卒業後の状況

① 大阪府内公立中学校卒業者数の推移



資料：大阪府学校教育審議会「今後の工業系高等学校のあり方について（答申）
(令和4年11月28日)」より抜粋

② 高等学校等進学率の推移（全国・大阪府）



資料：大阪府「令和5年度大阪の学校統計 学校基本統計（学校基本調査報告書）」より抜粋

- 大阪府内公立中学校卒業者数の推移をみると、平成28年度から令和3年度にかけて減少。推計では令和13年度に向けて減少することが見込まれている。
- 大阪府の高等学校等進学率は全国より0.2ポイント低いものの98.5%と高い水準にあるが、中学校卒業者数の減少が見込まれる中、志願者数の大幅な増加は見込みづらい状況にある。

2. 社会の動向等

～志願者数等生徒の状況～



■ 堺高校過去7年的一般入学者選抜における第一志望の志願者数（競争率）

課程	学科／入学年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全 日 制	全体 志願者数/定員 (競争率)	249/240人 (1.04倍)	228/240人 (0.95倍)	233/240人 (0.97倍)	223/240人 (0.93倍)	217/240人 (0.90倍)	228/240人 (0.95倍)	216/240人 (0.90倍)
	サイエンス創造科	30/40人	34/40人	24/40人	29/40人	27/40人	35/40人	22/40人
	機械材料創造科	80/80人	67/80人	70/80人	68/80人	72/80人	60/80人	75/80人
	建築インテリア創造科	60/40人	60/40人	61/40人	57/40人	49/40人	49/40人	44/40人
	マネジメント創造科	79/80人	67/80人	78/80人	69/80人	69/80人	84/80人	75/80人
定 時 制	全体 志願者数/定員 (競争率)	28/120人 (0.23倍)	43/120人 (0.36倍)	35/120人 (0.29倍)	16/120人 (0.13倍)	16/70人 (0.23倍)	20/70人 (0.29倍)	26/70人 (0.37倍)
	機械自動車創造科・建築創造科	21/80人	25/80人	24/80人	10/80人	14/35人	17/35人	13/35人
	マネジメント創造科	7/40人	18/40人	11/40人	6/40人	2/35人	3/35人	13/35人

資料：堺市調べ

○全曰制、定時制とも志願者数が減少。特に定時制における減少が顕著であり学校の小規模化が進行。

2. 社会の動向等

～志願者数等生徒の状況～



■ 堺高校全日制入学者数（推計）について

項目 単位（人）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
大阪府内公立中学校卒業者数 ※推計値	65,580	65,060	64,160	63,070	61,670	61,440	61,100	59,200
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 520	▲ 1,420	▲ 2,510	▲ 3,910	▲ 4,140	▲ 4,480	▲ 6,380
堺市中学校卒業者数 ※推計値	6,480	6,300	6,080	6,020	5,700	5,750	5,630	5,530
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 180	▲ 400	▲ 460	▲ 780	▲ 730	▲ 850	▲ 950
大阪府内公立中学校卒業者数推計による 堺高校志願者予測数 ※令和6年度は実績値	216	212	210	207	204	199	199	197
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 4	▲ 6	▲ 9	▲ 12	▲ 17	▲ 17	▲ 19
堺高校入学者のうち堺市立中学校出身者 数推計による堺高校志願者予測数 ※令和6年度は実績値	216	213	207	200	198	187	189	185
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 3	▲ 9	▲ 16	▲ 18	▲ 29	▲ 27	▲ 31

大阪府教育委員会会議資料、大阪府公私立高等学校連絡協議会資料より

- 今後、大阪府内公立中学校卒業者等の減少に伴い、令和13年度時点の入学者数は1学級程度減少することが見込まれる。



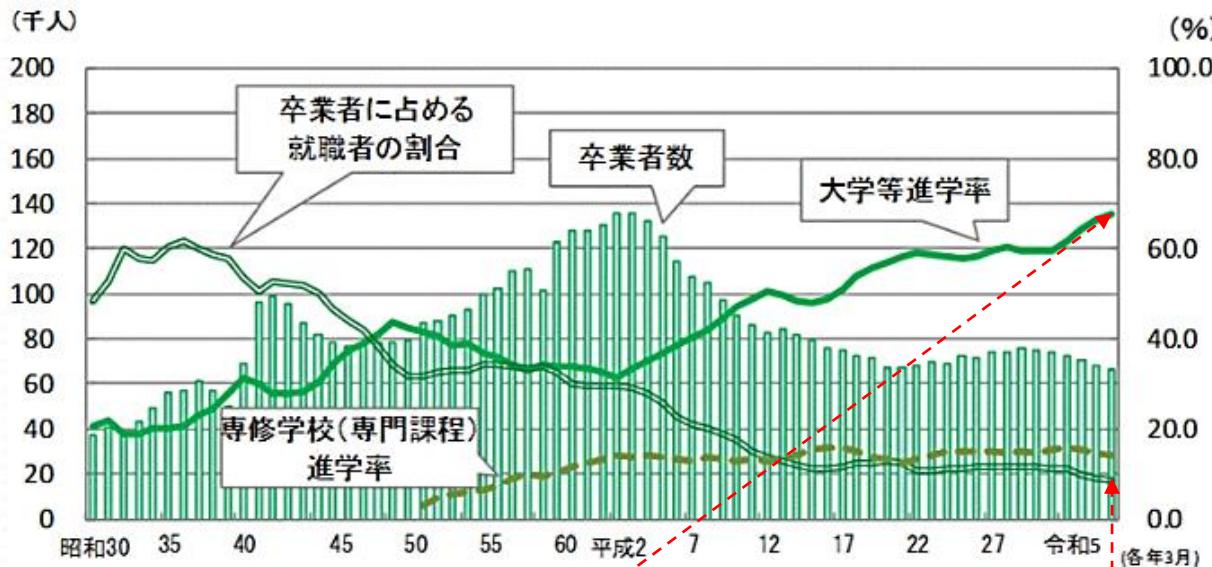
学級数の適正化必要：6学級→5学級

2. 社会の動向等

～志願者数等生徒の状況～

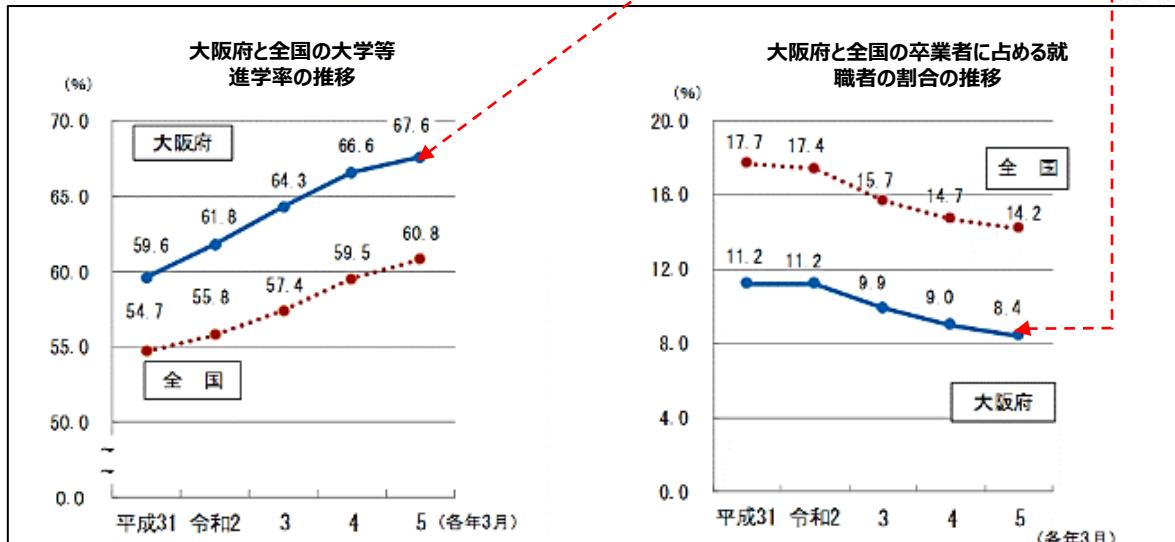
■高等学校卒業者に占める就職者の割合

【大阪府高等学校卒業者数、進学率及び卒業者に占める就職者の割合の推移】



※大阪の学校統計
(学校基本調査) より

大阪府高等学校卒業者に占める就職者の割合は減少傾向にあり、令和5年度は**8.4%**と、全国平均(14.2%)に比べてかなり低い。



大阪府高等学校卒業者の大学等進学率は増加傾向にあり、令和5年度**67.6%**と、全国平均(60.8%)に比べてかなり高い。

2. 社会の動向等

～志願者数等生徒の状況～



■ 堺高校過去6年の卒業生の進路状況

	卒業年度	卒業者数	進学者数			就職者数	その他※1
			大学・短大	専門学校等	計		
全 日 制	令和5年度	195人	51人 (26%)	49人 (25%)	100人 (51%)	88人 (45%)	7人 (4%)
	令和4年度	217人	56人 (26%)	51人 (24%)	107人 (49%)	108人 (50%)	2人 (1%)
	令和3年度	218人	74人 (34%)	41人 (19%)	115人 (53%)	97人 (44%)	6人 (3%)
	令和2年度	220人	68人 (31%)	52人 (24%)	120人 (55%)	97人 (44%)	3人 (1%)
	令和元年度	218人	53人 (24%)	44人 (20%)	97人 (44%)	118人 (54%)	3人 (1%)
	平成30年度	236人	78人 (33%)	38人 (16%)	116人 (49%)	111人 (47%)	9人 (4%)

	卒業年度	卒業者数	進学者数			就職者数	その他※1
			大学・短大	専門学校等	計		
定 時 制	令和5年度	18人	2人 (11%)	0人 (0%)	2人 (11%)	16人 (89%)	0人 (0%)
	令和4年度	41人	7人 (17%)	1人 (2%)	8人 (19%)	28人 (68%)	5人 (12%)
	令和3年度	32人	2人 (6%)	4人 (13%)	6人 (19%)	23人 (72%)	3人 (9%)
	令和2年度	33人	4人 (12%)	0人 (0%)	4人 (12%)	25人 (76%)	4人 (12%)
	令和元年度	33人	0人 (0%)	5人 (15%)	5人 (15%)	24人 (73%)	4人 (12%)
	平成30年度	40人	0人 (0%)	5人 (13%)	5人 (13%)	33人 (83%)	2人 (5%)

(備考) ※1 いわゆる「浪人生」

資料：文部科学省「学校基本調査」より作成

- 全曰制は、全国的な傾向と同様大阪府における高等学校卒業者の大学等進学率が上昇傾向にあるが、堺高校においても、近年、進学者数が就職者数を上回る状況にありつつある。
- 定時制はその多くが就職しているが、大学・短大、専門学校等への進学を選択する生徒が増加傾向にある。

2. 社会の動向等

～志願者数等生徒の状況～



■堺高校卒業生進路状況（全日制・業種別・堺市内外別）

卒業年度	学科名	就職者数									進学者数	その他 (浪人等)	卒業者数	(参考) 求人倍率
		建設業	製造業	運輸業	卸売業 小売業	金融業 保険業	サービス業	公務	その他	小計				
令和 5年度	サイエンス創造科	1	1	2	0	0	1	0	1	6	21	4	31	17.6
	機械材料創造科	9	41	3	3	0	2	3	1	62	43	2	107	
	建築インテリア創造科													
	マネジメント創造科	1	4	5	3	2	2	1	2	20	36	1	57	
	合計	11	46	10	6	2	5	4	4	88	100	7	195	
令和 4年度	合計のうち堺市内の 企業への就職者	2	30	2	2	0	1	0	0	37				14.9
	サイエンス創造科	0	1	1	0	0	0	1	2	5	26	1	32	
	機械材料創造科	10	40	8	3	0	5	2	3	71	41	0	112	
	建築インテリア創造科													
	マネジメント創造科	0	5	4	9	1	5	0	8	32	40	1	73	
	合計	10	46	13	12	1	10	3	13	108	107	2	217	
令和 3年度	合計のうち堺市内の 企業への就職者	1	24	5	8	1	6	0	3	48				15.3
	サイエンス創造科	0	3	0	0	0	0	0	0	3	28	4	35	
	機械材料創造科	6	47	4	1	0	1	1	6	66	50	2	118	
	建築インテリア創造科													
	マネジメント創造科	0	10	4	5	1	5	1	2	28	37		65	
	合計	6	60	8	6	1	6	2	8	97	115	6	218	
合計のうち堺市内の 企業への就職者		2	23	3	1	1	4	0	2	36				

(備考) ※堺市内の企業：本社または事業所が堺市にある企業

資料：堺市調べ

- 進路選択として就職を希望する生徒が半数近くおり、その多くが国・府・堺の基幹産業でもある製造業に就職している。また、就職者のうち製造・非製造業を問わず、堺市内の企業に就職する生徒は約4割を占める。
- 専門課程を有する高校としての強みを生かし、これまで以上に企業連携を図り、在学中から、学んでいる技術の延長線上に先端の技術があり技術の連続性があることを気づかせ、学習への意欲を喚起させる事に繋げるためのキャリア教育の推進が必要。さらに、社会経済の発展を牽引するイノベーションの創出や各地域における産業振興に向け、地域や産業界などの声も聴き、教育実践への協力を得ながら地域の産業分野において求められる資質・能力を育成することも必要。

2. 社会の動向等

～将来にわたり必要とされる能力～



■これから求められる能力～意識・行動面を含めた仕事に必要な能力等～

【能力等に対する需要】

資料：経済産業省「未来人材ビジョン（令和4年5月）」より抜粋

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル*	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

*基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性*	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

*革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

(注) 各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。

(出典) 2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究Ⅱ」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum "The future of jobs report 2020", Hasan Bakhshi et al., "The future of skills: Employment in 2030"等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。

- 経済産業省が令和4年5月に公表した「未来人材ビジョン」（以下「ビジョン」という。）では、「次の社会を形づくる若い世代に対しては、『常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力』、『夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢』、『グローバルな社会課題を解決する意欲』、『多様性を受容し他者と協働する能力』といった根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められる」としている。
- ビジョンの推計では、「デジタルや脱炭素化を受けた能力等の需要変化を仮定し、2030年及び2050年に各能力等がどの程度求められるか試算」したところ、「現在は、『注意深さ・ミスがないこと』、『責任感・まじめさ』が重視されるが、将来は『問題発見力』、『的確な予測』、『革新性』が一層求められる」としている。
- 専門課程を有する高校として時代に即した教育内容の充実に向けた抜本的な対応や、探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学び・実践的な学びを推進し、これから求められる能力を育むことも必要。

2. 社会の動向等

～将来にわたり必要とされる能力～

■ 労働需要の推計

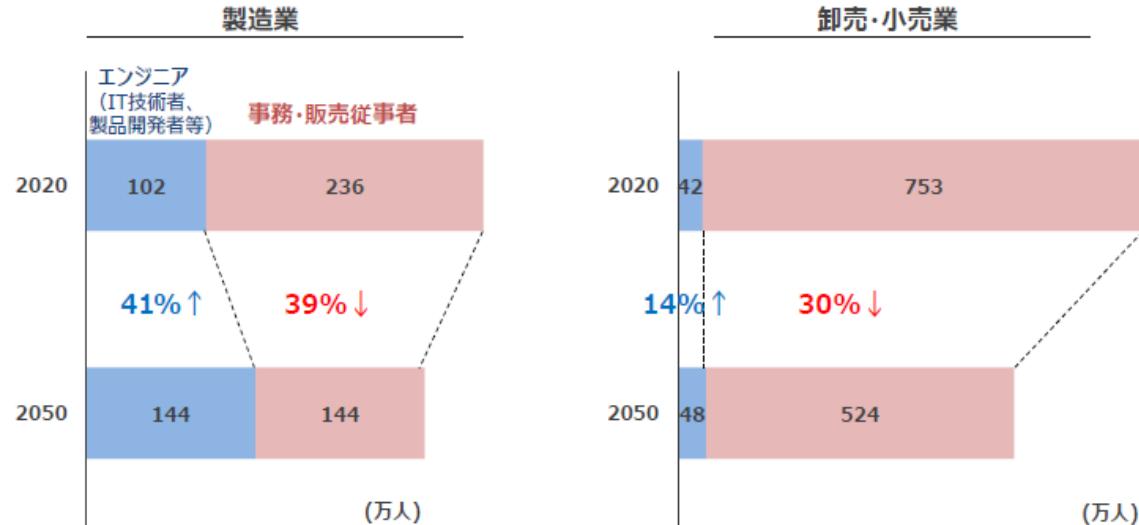
資料：経済産業省「未来人材ビジョン（令和4年5月）」より抜粋

【労働需要の変化】

労働需要の推計にあたり、デジタル化と脱炭素化が進展し、高い成長率を実現できると仮定した「高成長シナリオ」では、2050年において特徴のはっきりした労働需要の変化が確認

「職種」

事務従事者	42%	減少
販売従事者	26%	減少
情報処理・通信技術者	20%	増加
開発・製造技術者	11%	増加
「産業」		
卸売・小売業	27%	減少
製造業	1%	減少



- ビジョンの推計では、「問題発見力」や「的確な予測」等が求められるエンジニアのような職種の需要が増える一方、事務・販売従事者といった職種に対する需要は減少する。現在、事務・販売従事者を多く雇用している産業の労働需要は大きく減ることが見込まれる。
- デジタル化・脱炭素化という大きな構造変化は、人の能力等のうち「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」をより強く求めるようになり、その結果、2050年には現在の産業を構成する職種のバランスが大きく変わるとされている。
- 専門人材を育成する専門高校として、産業構造の変化等も見据え、教育内容の充実に向けた対応が必要。

(注) 労働需要の増減と、各産業・職種の付加価値の増減は連動しない点や、変化幅が大きいエンジニアと事務・販売従事者のみを取り出しており全職種の構成でない点に留意。

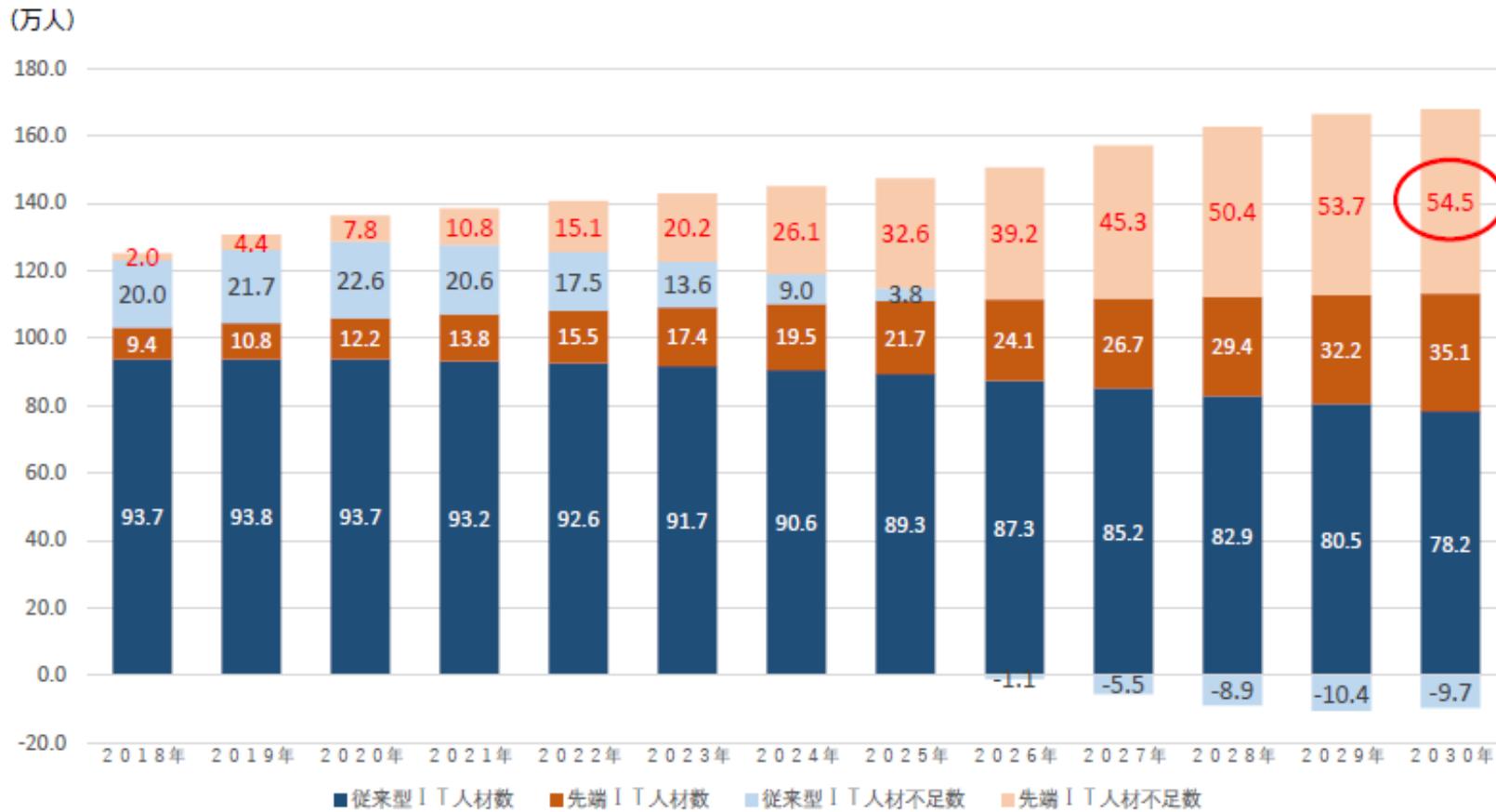
(出典) 労働政策研究・研究機構「労働力需給の推計・労働力需給モデル（2018年度版）」、「職務構造に関する研究Ⅱ」（2015年）、World Economic Forum “The future of jobs report 2020”, Hasan Bakhshi et al., “The future of skills; Employment in 2030”, 内閣府「産業界と教育機関の人材の質的・量的需給マッチング状況調査」（2019年）、文部科学省 科学技術・学術政策研究所「第11回科学技術予測調査ST Foresight 2019」等を基に経済産業省が推計。

2. 社会の動向等

～将来にわたり必要とされる能力～

■デジタル化の進展

① IT人材需給に関する試算



(出典) 経済産業省委託調査「IT人材需給に関する調査（みずほ情報総研株式会社）」（2019年3月）より作成

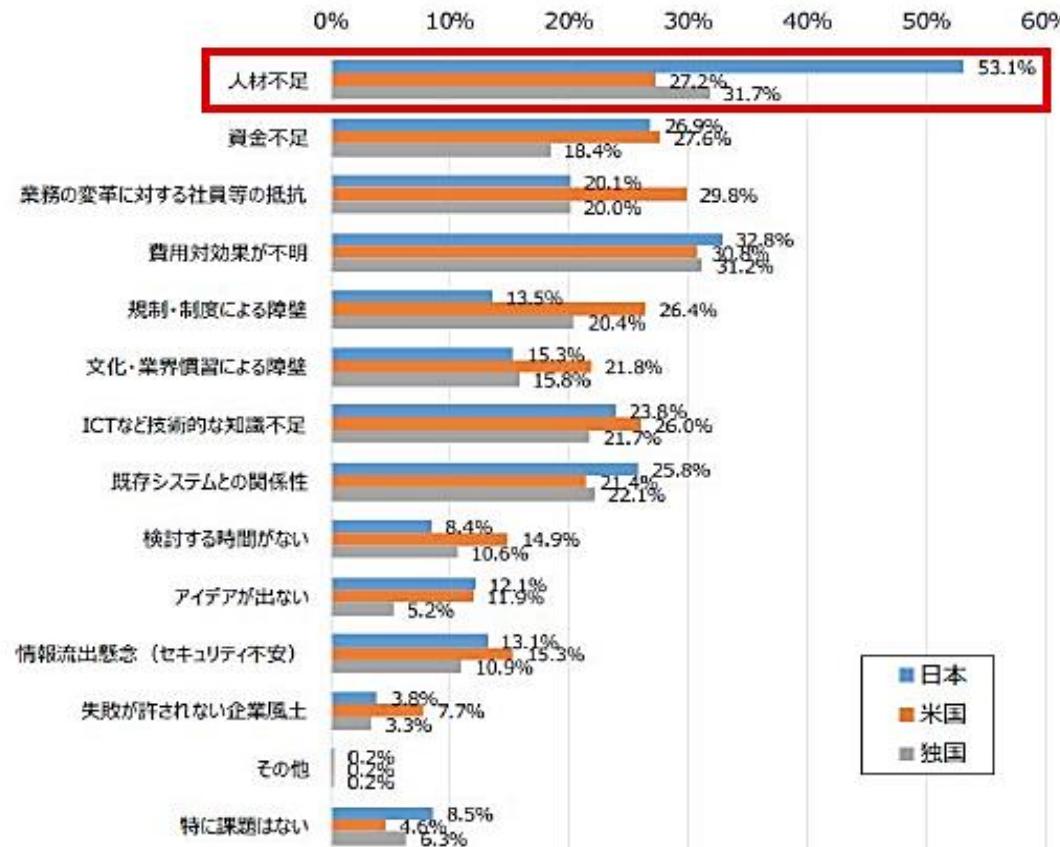
○IT人材需給に関する試算では、人材のリスキリングが停滞した場合、2030年には先端IT人材が54.5万人不足。

2. 社会の動向等

～将来にわたり必要とされる能力～

■デジタル化の進展

②企業がDXを進めるにあたっての課題（日米独比較）



（出典）総務省委託調査「デジタル・トランスフォーメーションによる経済へのインパクトに関する調査研究報告書（株式会社情報通信総合研究所）」（2021年3月）

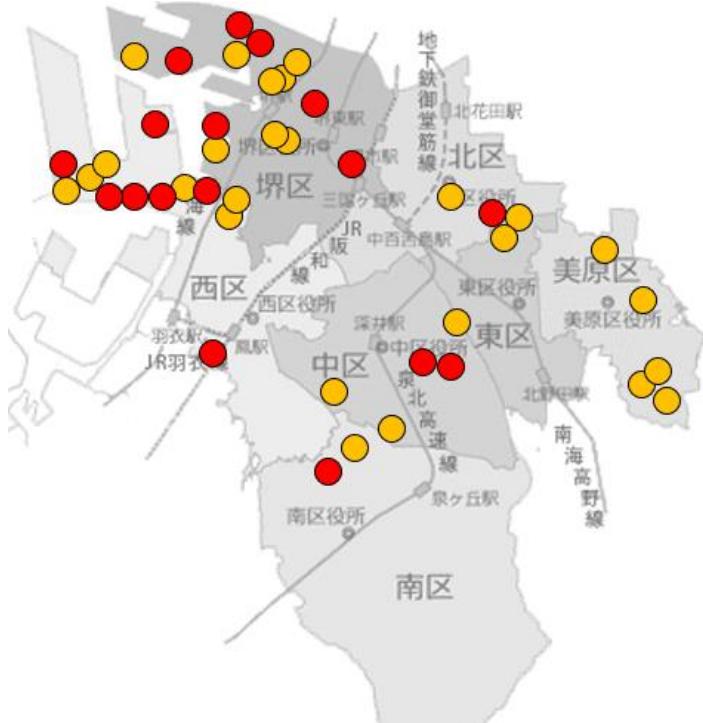
○アメリカやドイツと比較して、日本はDXを進めるにあたっての課題として「人材不足」を挙げている企業が圧倒的に多い。

2. 社会の動向等

～将来にわたり必要とされる能力～

■ 堺高校と堺市内企業との関係

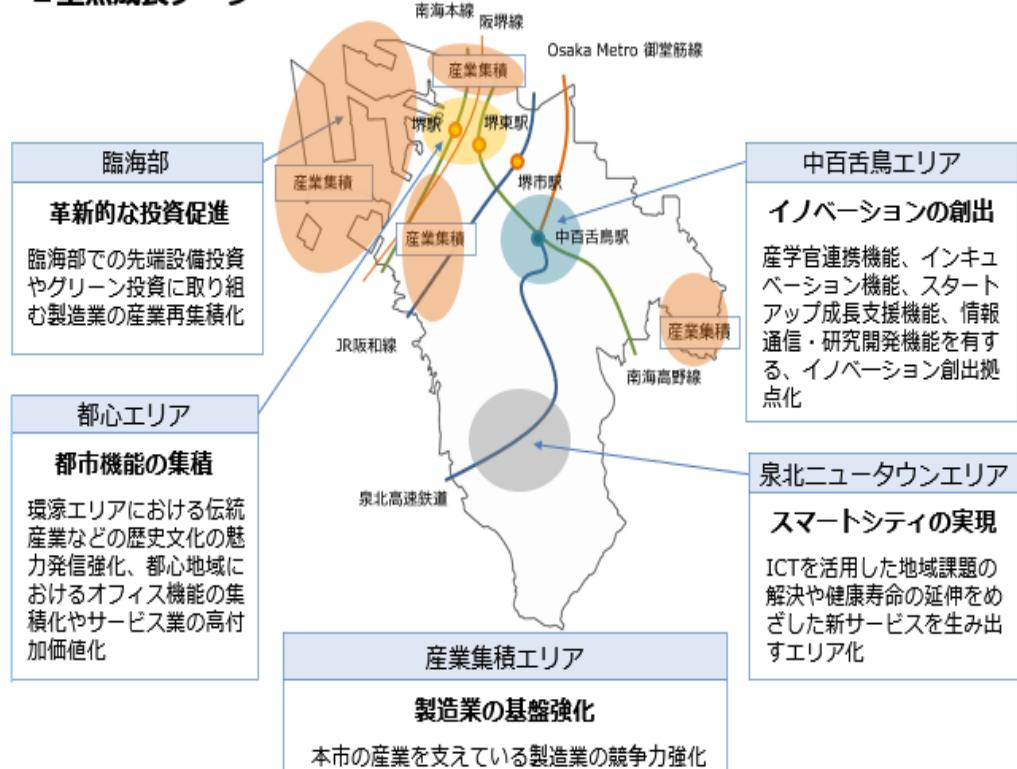
- 堺高校卒業生が2名以上就職している企業
(令和元年度卒業～令和5年度卒業の5年間)



- 5年間で4名以上就職した企業の所在地
- 5年間で2名以上就職した企業の所在地

【参考】「堺産業戦略」のエリア戦略において重点成長ゾーン

■ 重点成長ゾーン



資料：堺産業戦略（令和4年2月）より抜粋

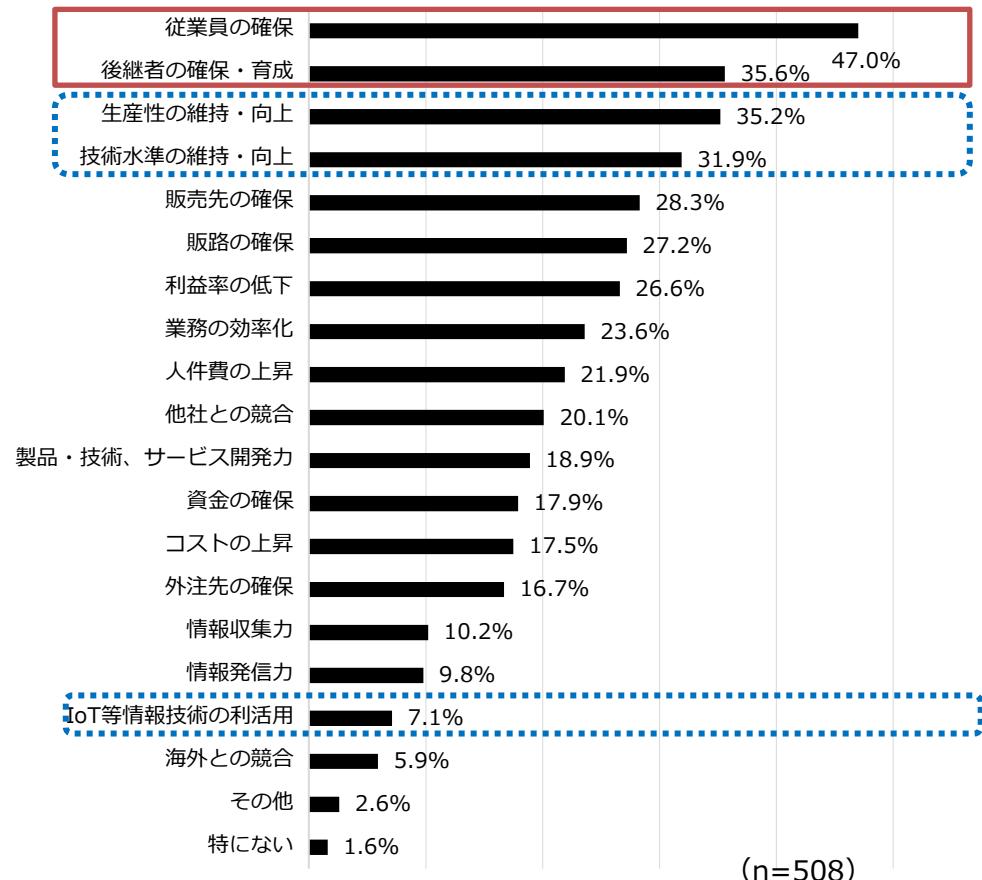
- 堺高校の卒業生は、堺市が、重点成長ゾーンに位置付けたエリアに立地する企業に多く就職。
- また、前述した「① IT人材需給に関する試算」と「②企業がDXを進めるにあたっての課題（日米独比較）」にもあるが、DXを進めるにあたっての課題として「人材不足」が挙げられている。このことは、堺市の企業も「IOT等情報技術の利活用」を課題としており、堺市内の企業に多くの生徒が就職している堺高校においても、デジタルものづくりをはじめとした各産業のDX化に対応できる最先端の職業教育を実践することも必要。

2. 社会の動向等

～将来にわたり必要とされる能力～

■【参考】堺市の企業が抱える課題（「堺産業戦略」より）

【中長期的にみた最大の課題】



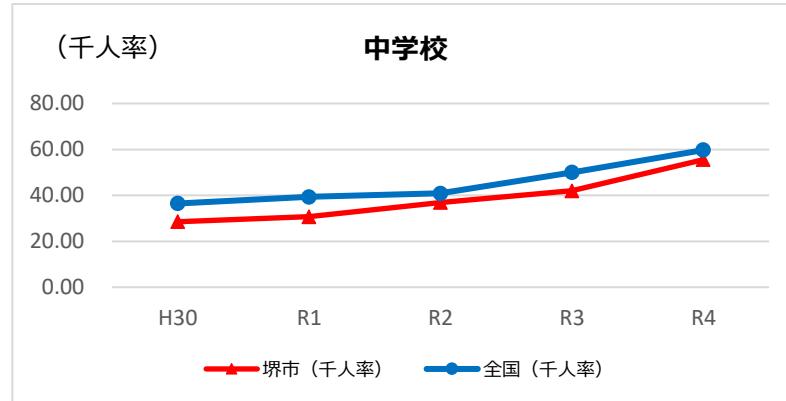
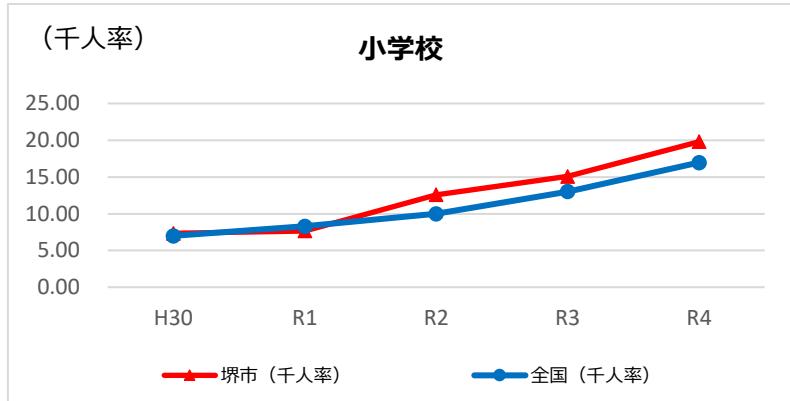
- 「堺産業戦略」において堺市の企業が抱える課題としてコロナ如何に関わらず中長期的に抱える課題は、人材育成・確保とされている。
- 「生産性の維持・向上」、「技術水準の維持・向上」も3割を超えており、堺の産業を担う人材を輩出している堺高校としては、次世代の技術に対応する人材を育成することが急務。

(出典) 堺市「市内事業者アンケート調査」(R3.3.16)

2. 社会の動向等

～生徒像の変化～

■堺市における不登校児童生徒数（千人当たり）の推移



○堺市及び全国の不登校児童生徒は、小・中学校とも5年連続増加。堺市の不登校児童数と千人率を全国と比較すると、小学校は、全国より高く、中学校は低いが、憂慮すべき状況。（小中とも5年連続増加）

資料：堺市調べ

【参考】中学3年時の不登校と高校の中退率（中退）の関係

1 中3時の登校状況（不登校群+準不登校群+中間群+精勤群）と中退時期

図1 A県の月別高1中退率



表1

分類	人数	中退者数	中退率	累積中退率が50%を越えた月
A県全体	13,024	258	2.0	12月
不登校群	299	71	23.7	11月
準不登校群	221	32	14.5	10月
中間群	1,351	59	4.4	1月
精勤群	10,964	96	0.9	2月
不明者	189	—	—	—

○国立教育政策研究所による「公立高等学校の中途退学発生プロセスについての調査研究（中間報告）」によると、中学3年時に不登校傾向（不登校群及び準不登校群）にあった生徒は、他と比較し中退率が高い状況にある。中退防止に向け、不登校、準不登校にある生徒の情報を高校と共有する必要がある。

本調査では中学3年時に年間30日以上の欠席者を「不登校群」、15日～29日を「準不登校群」、5日～14日を「中間群」、0日～4日を「精勤群」とした。表1での分類と人数については、意識調査（4月）の回答に基づいたものである。なお、中退者数については、出欠状況調査等（4月）に基づいた。

2. 社会の動向等

～生徒像の変化～

■ 堺高校定時制の生徒像の変化

① 堺高校定時制生徒の生活実態調査（1年生生徒の回答）

◆中学校の通学状況はどうでしたか。 あてはまるものをひとつ選んでください。	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
①毎日通っていた	3	3	4	8	8
②ときどき休んでいた	2	3	2	8	8
③休む日が多かった	7	2	2	7	7
④ほとんど通っていない	4	3	7	3	14
⑤無回答	1	5	1	9	1
回答数	17	16	16	35	38
1年生在籍者	24	23	25	48	62
回答数に対する②③④の回答の割合	76%	50%	69%	51%	76%

◆働くことについては、あなたはどのような状況ですか。	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
①経済的に働く必要があるので働いている	3	4	2	10	7
②経済的に働く必要があるが、現在つとめ先をさがしている	3	3	6	9	8
③時間があるので働いている	4	0	4	6	10
④働かなくてよい	2	1	0	1	2
⑤働くことに関心がない	0	3	2	2	3
⑥事情があって働けない	2	3	2	3	1
⑦専修学校など他の学校に通学している	0	0	0	0	0
⑧その他	3	2	0	3	5
回答数	18	16	16	35	36
1年生在籍者	24	23	25	48	62
回答数に対する①②の回答の割合	33%	44%	50%	54%	42%

資料：堺高校調べ

○中学校段階における不登校経験者の割合は各年度50%を超え、高い状況。

○特に、「ほとんど通っていない」生徒の割合も高く、生徒の成長に必要な教育や体験の機会が得られない状況が続いているとも考えられ、生徒の生活や学習等の情報について学校種を超えて引き継ぎ、それぞれに寄り添った対応が必要。

○「経済的に働く必要がある」割合が各年度30%を超えており、経済的に厳しい状況におされた生徒が学び続けることができる環境整備が必要。

2. 社会の動向等

～生徒像の変化～

■ 堺高校定時制の生徒像の変化

② 堺高校定時制 転入学・転籍・再受験者数等の推移

	転入学者数			転籍者数	再受験者数			中学校卒業後 期間を空けて 受験した受験者数	合 計	
	全日制から	定時制から	通信制から		全日制から	定時制から	通信制から			
令和元年度	4			1	9	1			15	
令和2年度	3			1	10			1	15	
令和3年度	1				4				5	
令和4年度	6	1			1			1	3	12
令和5年度	1			1	5					7
令和6年度 (5月1日現在)					3			1		4

※再受験者数について

他の高校に過去在籍しており、退学後、堺高校定時制を再受験して入学した生徒数

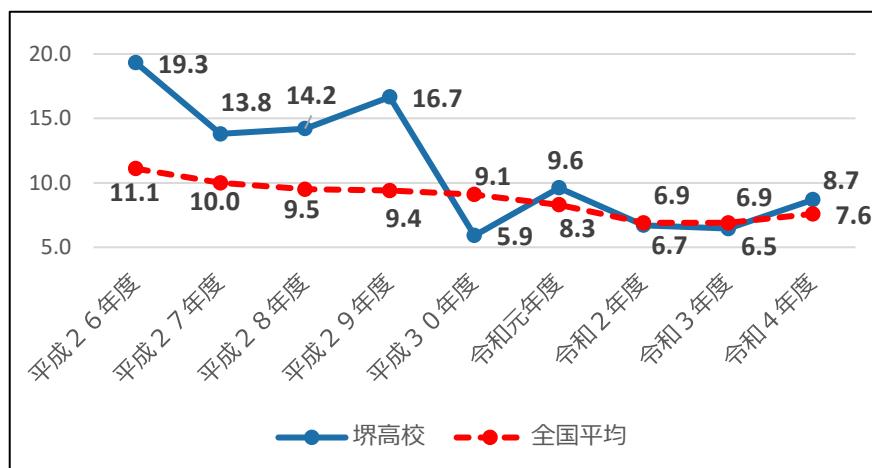
※転籍者数について

堺高校全日制から定時制に転籍した生徒数

資料：堺高校調べ

- 定時制では、「転入学」、「転籍」、「再受験」、「中学校卒業期間を空けての受験」と様々な形で「学び直し」の機能を果たしている。

③ 定時制に在籍する生徒の退学率



- 平成29年度以前は、退学率が全国平均を大きく上回る状況であったが、近年、全国平均を下回る状況が続いている。

資料：堺高校調べ

2. 社会の動向等

～生徒像の変化～



■ 堺高校定時制の生徒像の変化

④ 令和5年度 堺高校定時制 生徒アンケート回答集計（第1学年を除く）

令和5年4月14日実施（回収率85%）

4段階評価で回答（4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：全くあてはまらない）

No.	質問	肯定的		否定的	
		4+3	2+1		
1	学校へ行くのが楽しい	77.3%	22.7%		
2	この学校に入学して、よかったですと思っている。	88.6%	11.4%		
3	この学校には、他の学校にない特色がある。	93.2%	6.8%		
4	この学校では、専門的な知識や技術・技能が習得できる。	88.6%	11.4%		
5	先生は自分たちの話をよく聞いてくれる。	95.3%	4.7%		
6	授業はわかりやすく楽しい。	88.6%	11.4%		
7	教え方を工夫している先生が多い。	86.4%	13.6%		
8	学校生活についての先生の指導は理解できる。	88.6%	11.4%		
9	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。	86.4%	13.6%		
10	先生は他の人に知られたくない秘密を守ってくれる。	90.9%	9.1%		
11	先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる。	86.4%	13.6%		
12	担任（チューター）以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる。	86.4%	13.6%		
13	将来の進路や生き方について考える機会がある。	81.8%	18.2%		
14	学校行事（校外学習、文化祭など）は、みんなが楽しく行えるよう工夫している。	88.4%	11.6%		
15	部活動に積極的に取り組んでいる。	67.4%	32.6%		
16	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い。	81.8%	18.2%		
17	人権の大切さについて学ぶ機会が多い。	81.8%	18.2%		
18	教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいよう整備されている。	90.9%	9.1%		

○生徒アンケートでは、「この学校に入学して、よかったですと思っている。」について肯定的な回答（「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の計）をした生徒は88.6%と高く、さらに「この学校には、専門的な知識や技術・技能が習得できる。」について肯定的な回答が88.6%と高く、専門学科ならではの授業内容に満足していることが伺える。

○さらに、「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる」、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」、「先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」について、肯定的な回答が高く、教職員が、日々の教育活動の中で様々な困難を抱える生徒に寄り添った対応をしていることが伺える。

3. 課題整理等

■ 堺高校のあり方検討にあたって（取組経過等）

生徒から選ばれる魅力的な学校の実現をめざし教育委員会及び堺高校教職員も含めた「堺高校のあり方検討ワーキングチーム」を設置し、志願者数の減少や多様化する進路選択への対応、時代に即した教育内容の充実など堺高校が直面する課題の共有、堺の企業家や学識経験者などへのヒアリングなどを実施し、課題整理等を行った。

※全日制…全 定時制…定

項目	取組等		課題整理等
	概要		
堺高校在校生アンケート (全・定) (令和5年9～10月実施)	<p>【ヒアリング結果等：強み・良さ】</p> <ul style="list-style-type: none">・進学・就職支援が充実（全・定）・資格が取得できる（全・定）・施設・設備が良い（全・定）・学習内容（全・定）・先生との関係（全・定）・学校行事の充実（定）	<p>【ヒアリング結果等：課題や今後必要な対応等】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校行事の充実（全）・他学科との交流（全・定）	①学科横断的な取組検討
堺高校教職員アンケート (全・定) (令和5年9～10月実施)	<p>【ヒアリング結果等：強み・良さ】</p> <ul style="list-style-type: none">・就職・進学支援が充実（全・定）・複数の学科があること（全・定）・施設・設備がよい（全・定）・通学のしやすさ（全・定）・教職員と生徒の関わり（定）	<p>【ヒアリング結果等：課題や今後必要な対応等】</p> <ul style="list-style-type: none">・支援の必要な生徒が増加（定）・進学実績が必要（全）・学科の枠を超えた取組（全・定）・教員の採用及び資質向上（全）・広報の仕方（全・定）	①学科横断的な取組検討 ②学び直しのあり方検討
堺高校卒業生就職先企業へのアンケート (令和5年10月実施)	<p>【ヒアリング結果等：強み・良さ】</p> <ul style="list-style-type: none">・専門的なスキルが優れている・就職に対する意識や就業意欲が高い・業務に対する姿勢が真面目である	<p>【ヒアリング結果等：課題や今後必要な対応等】</p> <ul style="list-style-type: none">・幅広くデジタル対応ができる人材の育成（PCスキル・データ等元に事象を調査解析、整理する力等）・製造業など、堺市の地元産業を支える次世代人材の育成・輩出・コミュニケーション力の育成	③情報技術をベースにした学びの検討 ④専門分野を学ぶ意義を再整理

3. 課題整理等

■ 堺高校のあり方検討にあたって（取組経過等）

※全日制…全 定時制…定

項目	取組等		課題整理等
	概要		
有識者ヒアリング (令和5年7~8月実施)	<p>【ヒアリング結果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想や考えを育む教育、付加価値の高いものを作ることができる基礎を身につけさせるカリキュラムが理想。PBLは有効な方法の一つ ・多様かつ変化の激しい中で最適解を見つけることができるよう、自ら考えて行動する生徒を育成することと協働する力を身につけさせることが大切である ・起業（創業）マインドの教育は大切である ・堺高校はものをつくる工業科と商品化する商業科を有し、ものづくりからマーケティングまでの取組が1つの学校ができる強みがある ・堺市立中学校との距離感は、府立高校にない強みである ・商業科と工業科をもつ高校は、地域の大きな財産である。大切にしていく必要がある 		①学科横断的な取組検討 ④専門分野を学ぶ意義を再整理 ⑥多様な進路選択が可能なカリキュラムの検討
中学校進路担当教員へのアンケート (令和6年5月実施)	<p>【ヒアリング結果等：強み・良さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野を学ぶことができる（全・定） ・多くの資格が取得できる（全） ・就職支援が充実している（全・定） ・立地がよい（全・定） ・指導が丁寧（定） <p>【ヒアリング結果等：課題や今後必要な対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の強みを伝えきれていないところがあり、今まで以上に発信することが必要 ・学科名がわかりにくい <p>【全日制に関する主な意見】</p> <p>就職支援が充実している、専門分野を学ぶことができる、立地がよい、進学・就職どちらの進路も選択できる、学科名・学習内容が分かりにくく、サイエンス創造科は、対象となる生徒の学力から考えるとハードルが高い。</p> <p>※サイエンス創造科の志願者数が過去最低を更新（22/40人 0.55倍）</p> <p>【定時制に関する主な意見】</p> <p>立地が良い、就職支援が充実している、不登校生等へのサポートが必要</p> <p>※中学校在籍時に不登校経験がある生徒や支援を要する生徒が増加</p>		④専門分野を学ぶ意義を再整理 ⑥多様な進路選択が可能なカリキュラムの検討 ⑦学科名の検討 ⑧サイエンス創造科の位置づけ検討

3. 課題整理等

■ 堺高校のあり方検討にあたって（取組経過等）

項目	取組等 概要	課題整理等
令和6年度高等学校DX 加速化推進事業（DXハイスクール） (令和6年4月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・堺高校が当該補助事業の採択校に決定。 <p>※本補助金は、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化を図るために、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施すると同時に、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して、必要な環境整備の経費を支援するもの。</p>	③情報技術をベースにした学びの検討
京都市立京都工学院高等学校及び京都奏高等学校視察 (令和6年4月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・京都工学院高等学校は、フロンティア理数科、プロジェクト工学科（ものづくり分野系統・まちづくり分野系統）の2学科を有し、プロジェクトゼミ活動（PBL）として、学科や分野の枠を超えた探究活動を実施。令和5年度からのSSH指定校を契機に、大学・研究機関と連携しながら、STEAM教育の更なる充実を図っている。 ・京都奏高等学校は、学習する時間帯や卒業までの年数を選択できる4部制の普通科。学びのつまずきや不登校を経験した生徒に、学び直しと集団で学ぶ機会を提供。「ビジテック」というビジネス（商業）とテクノロジー（工業）を掛け合わせた独自科目に取り組み、ものづくりやマーケティングを学び、2年次以降は地域や社会、龍谷大学と連携した取組を実施。 	①学科横断的な取組検討 ②学び直しのあり方検討 ⑤大学（高専含む）等との連携検討
奈良県立奈良商工高等学校視察 (令和6年12月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・当該校は、全日制に機械工学科、情報工学科、建築工学科、総合ビジネス科、情報ビジネス科、観光科の6学科を、定時制に工業科と商業科の2学科を有し、それぞれの専門分野の学習を深めている。また、全日制では「プロジェクト探究」の中で学科の枠を超えた探究活動を実施。 	①学科横断的な取組検討 ②学び直しのあり方検討
一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォームへの参画 (令和6年9月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・STEAMの振興に資する事業を推進する一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）に特別会員として加入。 	⑩PLIJが提供する様々なコンテンツも活用し、STEAM教育のさらなる推進に取り組む
【参考】 大阪府立福泉高校募集停止（堺市西区・令和8年度）	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境科学コース」及び「国際文化コース」をおく普通科専門コース設置校として特色ある授業を実施してきたが、令和3年度以降4年連続して志願者が満たない状況が続き、加えて在籍生徒の多くが居住する堺市の中学校卒業者数が減少傾向にあり改善が見込めないため令和8年度に募集停止。 	⑨堺高校の志願者の7割以上が市内の中学校出身であることをふまえ、定数適正化を検討

3. 課題整理等

■ 堺高校のあり方検討にあたって（意義）

1. 商業科及び工業科を併せ持つ総合型専門高校としての強み

- 府内でも有数の充実した施設・設備の中、実践的・専門的な学びを通じて専門技術・技能等を修得し、卒業後更に高度な知識・技術を身に付け、将来の専門的職業人として活躍する礎を築くことが可能。
- 専門学科の学びの中で高度なICTスキルを育成することが可能。
- 商業科と工業科が協働して課題研究に取り組むなど、学科横断的な学びを通じて、今後の創造的活動を支える力の育成が可能。（アントレプレナーシップ教育）

2. 堺高校の卒業生が地域産業の担い手として活躍するなど企業との強い信頼関係を有する強み

- 地域産業との強い結びつきを生かし、企業と連携した実践的な教育や外部人材の協力を得て教育活動等を充実することが可能。

3. 本市唯一の市立高校として、本市の施策（事業）を直接実施できる強み

- 定時制課程は近年増加傾向にある不登校の経験者等特別な支援を必要とする生徒等の受皿として、学び直しと安心して学ぶ居場所の創出に寄与している。その他事業においても小中高一貫した効果的な取組（連携）が可能。

生徒

情報技術をベースとした専門高校ならではの実践的・体験的な学びが可能な環境の中で、多様な生徒の自己実現と、様々なキャリアパスにつなげる。

産業振興

企業の技術水準の向上や生産性の向上など地域産業を牽引し、イノベーションの創出に寄与する資質・能力を身に付けた「付加価値を高める人材」を育成し、地域に根差しつつ世界を見据えた専門人材の輩出や新たな産業の創出（起業）など、産業の更なる活性化につなげる。

都市魅力

子どもの可能性を伸ばすことができる教育環境の充実により、「子育て・教育しやすい都市」としての魅力を向上させる。

4. 高校改革の方向性

■めざす高校

- 受験者ニーズの変容をとらえた**真に選ばれる高校**をめざす。
- 充実したカリキュラムによる次代を切り拓く**専門人材を育成する高校**をめざす。
- 地域産業・社会に貢献する高校をめざす。

中学生から憧れられる学校

生徒が誇れる学校

社会から必要とされる学校

■改革コンセプト

(1) 次代を切り拓く、イノベーションの創出に寄与する人材を育む学び

- ・将来、「問題発見力」や「的確な予測」等が求められるエンジニアのような職種の労働需要が増加。
- また、企業がDXを進めるにあたって人材不足が課題として挙げられている。
- ・堺市の重点成長ゾーンに位置付けたエリアに立地する企業に多くの卒業生が就職。

高度な専門人材の育成

(2) 中学校卒業者の減少（志願者数の減少）を見据えた定員の適正化

- ・大阪府内公立中学校卒業者等の減少に伴い、令和13年度時点の入学者数は、1学級程度減少することが見込まれる。

**持続可能な学校経営
(定員の適正化)**

(3) 多様な進路選択が可能なカリキュラムの充実

- ・大阪府高等学校卒業者に占める就職者の割合は減少傾向。一方、大学等進学率は増加傾向
- ・近年、堺高校において、進学者数が就業者数を上回る状況にありつつある。

**将来につながる
カリキュラムの充実**

(4) 学びをあきらめない生徒を応援する学校（セーフティネットとしての学校）

- ・堺市における不登校生徒の増加。
- ・堺高校定時制には、中学校段階における不登校経験者や経済的に働く必要がある生徒の割合が高い。

**学びのセーフティネット
の充実**

5. 今後の予定（案）



項目	日程
高校改革の基本的な方向性決定（教育委員会）	令和7年3月
高校改革実施計画策定（教育委員会）	令和8年4月
学科改編等議決（教育委員会） 大阪府へ報告	令和8年8月頃※
新学科募集活動開始	令和9年4月
新堺高校入試	令和10年2月
新堺高校新入生入学	令和10年4月上旬

※学科改編等の時期は、大阪府教育庁が検討を進める府立高校入試の2月への日程前倒しなどを含めた新たな入学者選抜制度導入と合わせる予定。

6. 参考

■ 国における議論

【文部科学省：高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（抜粋）】

（これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方）

- ◆ 高校生活の実態は地域・学校により非常に多様な状況。質の確保・向上に向けて、
 - ・生徒一人ひとりの個性や実情に応じて多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」
 - ・全ての生徒が必要な資質・能力を共通して身に付けられるようにする「共通性の確保」を併せて進めることが必要
- ◆ 「多様性への対応」に向けて、生徒の希望する進路の実現に必要な学習機会の提供が重要であるが、現状として、生徒の多様な学習ニーズへの対応、不登校など多様な背景を有する生徒の受入れ、進路の固定化等に課題
- ◆ 今後、地理的状況や各学校・課程・学科の枠に関わらず、いずれの高校においても多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限引き出していくため、必要な体制・環境を整備しつつ、遠隔授業や通信教育の活用、学校間連携の促進、関係機関との連携・協働等を一層進めていくことが重要
- ◆ 「共通性の確保」に向けて、各種法令等に規定されているもののほか、選挙権年齢や成年年齢の引下げ、生成AI等の急速な普及等の変化をふまえ、今後、
 - ・自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力の育成
 - ・自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その問に対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力の育成
 - ・自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力の育成
 - ・義務教育において修得すべき資質・能力の確実な育成など、知・徳・体のバランスのとれた土台の形成に取り組んでいくことが重要
- ◆ これらの力の育成が全ての高校において着実になされるよう、学習指導要領が掲げる理念の一層の浸透と、「総合的な探究の時間」を教育課程の基軸に据えながら各教科・科目等の相互の関連を図る中で学びの充実を図ることが特に重要
- ◆ 「多様性への対応」と「共通性の確保」に各高校が取り組む上では、国や高等学校の設置者の取組の下、学校における働き方改革、教師の資質能力の向上や指導側の体制・環境整備、大学入学者選抜の改善等を併せて進めていくことも重要

資料：中央教育審議会初等中等分科会（第142回）（令和5年9月7日開催）資料「高等学校教育の在り方ワーキンググループの中間まとめ」（概要）より

※次ページへ続く

6. 参考

【文部科学省：高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（抜粋）】

（全日制・定時制・通信制の望ましい在り方：生徒の多様な学習ニーズに応える柔軟で質の高い学びの実現に向けて）

- ◆ 近年、不登校児童生徒数は義務教育段階を中心に大幅に増加し、令和3年度時点で小中高で合わせて約30万人と過去最多。高校では通信制に在籍する生徒数は近年大幅に増加しており、通信制が多様な背景を有する生徒の受け皿になっている状況
- ◆ 1人1台端末環境の整備や、同時双方向型のメディア活用の普及状況等を踏まえれば、1人1台端末環境の整備とあわせて、全日制・定時制・通信制いずれの課程であっても、いつでも・どこでも・どのようにでも学ぶことが等しく認められるようにするなど、生徒の状況に応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現が重要
- ◆ 全日制・定時制において、多様な生徒が現籍校での学びを継続しながら、多様な学びを実現して卒業できよう、支援の充実、入学者選抜における適切な評価、履修・修得の柔軟な認定、通信教育の活用、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置や校内教育支援センターの設置促進、学校間連携等の促進、ICT活用の体制・環境整備などを考えていくことが重要

（社会に開かれた教育課程の実現、探究・文理横断・実践的な学びの推進：全ての生徒の学びの充実に向けて）

- ◆ 高校では、
 - ・平日・休日ともに、約3割の生徒が家や塾で学習を「しない」と回答
 - ・学校での学び・授業の満足度・理解度についても、中学生以降、学年が上がるとともに低下傾向
 - ・「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識等が国際的に低い
 - ・高校入学校段階で、入試難易度や属性、これらに対する大人の価値観などに影響を受けて自身を評価
 - ・文理横断型の教育が求められる中、約3分の2の高校は文理のコース分けを実施し、特定の教科を十分に学習しない傾向
- ◆ 生徒が高い意欲を持って学習し、自身の可能性や能力を最大限伸長できるよう、社会に開かれた教育課程の実現や、探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学び・実践的な学びの推進が必要。先進事例を今後いかに全国に広げていくかが課題
- ◆ これに向けて、指導側の体制・環境整備、コミュニティ・スクールやコーディネーター配置の推進等による国内外の関係機関とも連携・協働した教育活動の展開が重要。専門高校においても、企業等の人材が教育・運営に参画して教育課程の刷新・実践を行う取組を引き続き支援するとともに、進路希望の生徒への支援充実なども重要
- ◆ 生徒の可能性・能力を最大限伸長するとともに将来の自らの在り方・社会とのかかわり方を展望する意識を養い、「生徒を主語」にして、生徒が希望する進路選択を支援していくことが必要